

## 受け継ぐ食育の心

クッキングスクールネモト主宰 根本悦子



平成8年に当時の厚生省は、成人病と言われた病気の名称を生活習慣病と大きく改めました。生活習慣病は、成人だけがかかる「成人病」ではなく、今や家庭環境の変化による食生活の乱れが、子どもや幼児までにも及ぶようになってきました。

アトピー、アレルギー問題、小児糖尿病など今だからこそ食のあり方を真剣に見つめなおす時だと日々講習会を通じ痛感しております。“三つ子の魂百まで”という言葉があります。これは約3歳までに受けた教育で性格が決まり、それは100歳になっても変わらないということです。食に関わる教育もまさに同じことで、母乳から離乳食、幼児食における過程は母親にとって子どもの歯の生え具合を見てご飯やおかずの固さを調節し、一生の食生活の中でも変化の大きい、肌で親の愛情を感じられる大切な期間だと思います。

ではこれほどまでに日本人の食生活が歪められ変質し始めたのはいつ頃からでしょう。昭和30年代日本経済は高度成長に向かって歩み始め、この頃から加工食品のメーカーが次々と現れ、それと同時に日本人の食生活も急速に乱れたと思われます。日々の生活が多忙になり、食事に費やす時間が短縮されたことが挙げられます。すなわち、便利な調理済み食品、インスタント食品の利用により、調理時間が短くなり、それに伴って食事の内容が画一され、変化が乏しくなったことから、栄養面にも偏りが生じて栄養不足が増えています。現在食卓への調理済み加工品の利用割合は約70%にのぼっており、食事を家族団らんで過ごす風習や伝統食が失われつつあります。楽しく食事をすることはリラックス効果があり、食欲が増えて体の中の消化液も十分分泌されます。よって必要な栄養素を食事から無駄なく取り込まれ日々の健康な体をつくっているのです。手軽な加工食品の大量生産は日本人の特に子どもたちの

健康の劣悪化に影響が及ぶことがとても心配なのです。2005年に“食育基本法”が成立し学校に栄養教諭を置いて子どもたちに食の大切さを教育することになりました。生きることは食べること、子どもたちが食について学ぶことは良いことです。しかし、先生方がいくら熱心に伝えても家庭で実践しなくては身につけません。本来であれば食材の選び方、食べ方（マナー）、感謝の心などといったことは伝統行事を通じて徐々に身につくものでしたが、学校で教えるものとなってしまいました。本来母親が子に対する絶対的な愛情は愛情ホルモン（オキシトシン）が分泌され、絆が生まれます。親が子を守り、やがて子が親を守っていくのです。

人間の生き方には節目があり、一年の中にも、一日の中にも節目があります。私たちが朝・昼・晩を食事によって区切っているように、節目を教えるのは食です。食の教育（伝統食）はすべてを含んだ生きる仕組みなのです。なによりも大切なのは明日を担う子どもたちの健康と笑顔です。“味覚の幅は人間の幅に通じる”と申します。特定の料理ばかり好み、他の料理に興味を示さない傾向にあるということは、人間関係や視野が狭くなる恐れがあります。反対に料理の変化に富んだ食事をしている人は、五感が十分に発達し人間関係や視野が広がり、他人のことも考えられる思いやりの心が芽生えます。“食わず嫌い”という言葉がありますが、これは本能的なもので乳児が離乳の時、初めての味は中々飲み込もうとはしません。これは安全性の確信できない味に対してすぐに吐き出してしまうものを、母親が根気よく食べさせ、その味に対して親しみを覚えるようになります。このように味覚教育は大切であり、先生をはじめ親も子どもの視点にたち、助け合いながら子どもたちの成長を見守りたいものです。

★自由民主党・幼児教育議員連盟総会ならびに

幼児教育振興法（仮称）の早期制定を求める全国集会が開かれる

## 幼児教育振興法（仮称）の早期制定を求める 幼児教育無償化の更なる推進 「教職員の待遇改善」と「幼児教育の環境整備」等の 更なる充実



▲▼幼児教育議員連盟総会



平成 27 年 9 月 17 日（木）正午から、東京・永田町の自由民主党本部において「幼児教育議員連盟（会長：中曽根弘文参議院議員）」の総会が開かれ、国会議員約 60 人が出席し、幼児教育振興法（仮称）について説明・意見聴取が行われました。全日私幼連からは、香川敬会長をはじめ全日私幼連理事等約 70 人が出席しました。

会合では、中曽根弘文会長のあいさつに続いて、



▲幼児教育振興法（仮称）の早期制定を求める全国集会

山本順三・自民党幼児教育小委員会委員長から「幼児教育振興法（仮称）」について説明が行われ、全日私幼連・香川会長、田中雅道副会長が幼児教育振興法（仮称）の内容に対して意見表明・要望を行いました。

その後、出席された国会議員から幼児教育の重要性や幼児教育の無償化の更なる推進、幼児教育振興法（仮称）の早期制定について活発で力強い意見交換が行われ、閉会となりました。

同日午後 3 時から、東京・半蔵門のグランドアーク半蔵門において「幼児教育振興法（仮称）の早期制定を求める全国集会」が開催され、全国から全日私幼連理事、全日私幼 P 連代表者等が約 120 人参加しました。

全国集会には、下村博文・文部科学大臣をはじめ、中曽根弘文・自民党幼児教育議員連盟会長、遠藤利明・東京オリンピック競技大会東京パラリンピック競技大会担当大臣、山谷えり子国家公安委員長、丹羽秀樹文部科学副大臣、富岡勉・自民党文部科学部



下村 博文氏  
文部科学大臣、  
衆議院議員



河村 建夫氏  
全日私幼P連会長、  
衆議院議員



遠藤 利明氏  
東京オリンピック競技大会・  
東京パラリンピック競技大  
会担当大臣、衆議院議員



中曽根弘文氏  
自由民主党幼児教育議員  
連盟会長、参議院議員



山谷えり子氏  
国家公安委員会委員長、  
参議院議員



丹羽 秀樹氏  
文部科学副大臣、  
衆議院議員



富岡 勉氏  
自由民主党文部科学部  
会長、衆議院議員



馳 浩氏  
自由民主党幼児教育議員  
連盟事務局長、衆議院議員



橋本 聖子氏  
参議院議員



北川 知克氏  
衆議院議員

会長、馳浩・自民党幼児教育議員連盟事務局長、橋本聖子参議院議員、北川知克衆議院議員が出席され、幼児教育振興法（仮称）の早期制定に向けて、一丸となって取り組んでいく旨のお言葉をいただきました。

続いて、月本喜久・全日私幼P連副会長が幼児教育振興法（仮称）の早期制定の要望書を読み上げ、河村建夫・全日私幼P連会長、香川敬・全日私幼連会長から中曽根弘文・自民党幼児教育議員連盟会長へ要望書を手渡しました。最後に、北條泰雅・全日私幼連副会長から閉会の辞が述べられ閉会となりました。

☆ ☆

全日私幼連では、香川敬会長を先頭に、組織の総力を結集し、幼児教育振興法（仮称）の早期制定に向けて、関係方面に対する要望活動を強力に行っております。

加盟園の皆さまにおかれましては、幼児教育振興法（仮称）の早期制定に向けての署名活動にご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。



▲中曽根議連会長に要望書が手渡されました



平成 27 年9月 17 日

自由民主党 幼児教育議員連盟  
会 長 中 曾 根 弘 文 様

## 要 望 書

### 私立幼稚園教育の一層の充実に向けて 『幼児教育振興法(仮称)』の早期制定を是非ともお願いします

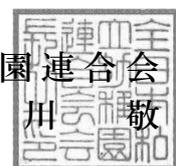
私たちは、私たちの子どもの教育にもっともよい施設を選んで、私立幼稚園に子どもを入園させています。それぞれの私立幼稚園の教育理念が実現できる、またより教育内容が充実できるよう、次の4点を重点施策として『幼児教育振興法(仮称)』の早期制定をお願いします。

- ◎ すべての子どもが良質な幼児教育を受けるために、幼児教育無償化の実現をお願いします。
- ◎ 幼児に寄り添う人的環境として、優秀な教諭が安定して長期に関われる体制を作るために、幼稚園教諭の待遇改善のための財政支援をお願いします。
- ◎ 幼児期以降の学びを豊かなものにするために、満3歳未満の子どもを抱えるすべての家庭を支えていく施策が重要となっています。幼稚園における地域の子育て支援センターとしての役割を充実させるために、幼稚園における満3歳未満児を対象とする、地域の子育て支援センターとしての事業への財政支援をお願いします。
- ◎ 就労していても満3歳になったら良質な教育を受けさせたいと願っている保護者が多くいます。すべての保護者が自らの判断で施設を選択できる環境の整備をするために、幼稚園における預かり保育事業への財政支援をお願いします。

全日本私立幼稚園PTA連合会  
会 長 河 村 建 夫



全日本私立幼稚園連合会  
会 長 香 川 敬



## 幼児教育振興法（仮称）制定に向けての 署名活動実施等について協議

9月2日、東京・私学会館において全日私幼連の臨時理事会が開催され58人が出席しました。

会議に先立ち、平成28年度・私立幼稚園関係予算概算要求について行政報告が行われました。まず、淵上孝文部科学省初等中等教育局幼児教育課長より幼児教育に関わる概算要求について説明があり、つづいて蝦名喜之文部科学省高等教育局私学部私学助成課長より私学助成関係の概算要求の状況について説明がありました。その後、質疑応答がありました。

行政報告終了後、澤田豊副会長の開会のあいさつ、香川敬会長からのあいさつがあり、議長に坂本洋理事（岩手県）、土居孝信理事（大分県）、議事録署名人に石井亮一理事（岐阜県）、仁保一正理事（福岡県）が選任されました。議事録署名人選任の後、議事に入りました。

■報告案件1：幼児教育振興法（仮称）制定に向けての署名活動実施の件



幼児教育振興法（仮称）制定に向けての署名活動実施について、坪井久也政策委員長より報告が行われました。

■審議案件1：幼児教育振興法（仮称）制定に向けての財源確保（臨時会費の徴収等）の件

幼児教育振興法（仮称）制定に向けての財源確保について田中辰実総務委員長より説明があり、質疑

### 1日1話、365日分の「読みきかせお話集」

E40451

E40452

E40453

E40454

きょうのおはなしなあに

1冊につき3か月分を収録。情操を育むお話はもちろん季節や行事などの内容も盛り込んだ1日1話、365日分の「読みきかせお話集」の決定版です。漢字にはふりがながついて、子ども自身でも読むことができます。

各巻 定価：本体 **2,400円** (税別)

大きさ／26.2cm×21.5cm

秋・冬は、全国学校図書館協議会選定

**ひかりのくに株式会社**

本社／〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表  
支社／〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

応答の後、満場一致で承認されました。

■審議案件2：特別会計の設置の件

田中総務委員長より特別会計設置の提案について説明があり、質疑応答の後、満場一致で承認されました。

■報告案件2：会務運営について

各委員会の委員長、プロジェクト座長から、会務運営の進捗状況について報告がありました。最後に政令指定都市特別委員会担当の尾上正史副会長より

報告が行われました。

■（公財）全日私幼研究機構からの報告

田中雅道（公財）全日私幼研究機構理事長から機構の活動について報告が行われ、認定こども園の第三者評価実施について説明がありました。

最後に尾上副会長より、閉会のあいさつがあり臨時理事会は終了しました。

（調査広報委員長・四ツ釜雅彦）

●9・2 常任理事会

臨時会費、特別会計の設置など

同日行われた臨時理事会に先立ち、常任理事会が開催され31人が出席しました。

澤田豊副会長からの開会のあいさつ、香川敬会長のあいさつの後、議長に村山十五副会長、議事録署名人に川島孝教常任理事、松下瑞應常任理事が選任され、議事に入りました。

■報告案件1：幼児教育振興法（仮称）制定に向けての署名活動実施の件

坪井久也政策委員長より幼児教育振興法制定に向けての署名活動等の取組みについて報告が行われました。全会一致で承認され、臨時理事会に上程されることが決まりました。

■審議案件1：幼児教育振興法（仮称）制定に向けての財源確保（臨時会費の徴収等）の件

田中辰実総務委員長より幼児教育振興法（仮称）制定に向けての財源確保について説明がありました。臨時会費についての意見交換が行われ臨時理事会に上程されることが承認されました。

■審議案件2：特別会計の設置の件

田中総務委員長から資料をもとに説明が行われました。また香川敬会長よりも説明があり、臨時理事会に上程されることが承認されました。

会務運営報告、（公財）全日私幼研究機構からの報告については臨時理事会で諮られることとなり、常任理事会は終了いたしました。

（総務委員長・田中辰実）

理事長・園長・副園長・主任…保育現場をマネジメントするすべての保育者のために

園の未来をデザインする  
保育ナビ

月刊保育雑誌

定価：本体価格926円＋税  
B5判 72ページ

11月号の主な内容

特集 [2か月連続特別企画] ここが知りたい! これからの「人材確保」「離職防止」PART ①  
選ばれ続ける職場となるために

- 園の未来が見えてくる 保育の夜明け 特別編×経営みらい塾2015 新制度時代、教育・保育の新ビジョン
- 人が育つ職場づくりに コーチング事例ピックアップ! 忙しすぎて時間が足りない、残業の多い職員たち
- スピーチ実践術! Part2 保育参加 ほか

・人材育成の連載が充実!  
・特集記事、連載記事の連動企画がWebで読めます!  
「保育ナビ」で検索!

※表紙・内容は変更の場合があります。



2015年度の表紙写真は倉橋想三の言葉に合わせて選んでいます。ぜひ本誌をご覧ください。

ISBN978-4-577-81381-2 751

ご注文・定期購読のお申し込みは下記まで  
03-5395-6608 保育営業部

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>

キンダーブックの  
フレイベル館

## 平成27年度・102条園研究会議開かれる

東京・私学会館



●講演Ⅰ／

演題：「今後の幼児教育のあり方について」

講師：村山十五・全日本私立幼稚園連合会副会長

●講演Ⅱ／

演題：「子ども・子育て支援新制度が執行されて～現状と課題～」

講師：林俊宏・文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育企画官

●質疑応答／事前に集めた、『子ども・子育て支援新制度』について、一般的な質問と102条園に特化した質問についての質疑応答と共に、参加者からの意見交換が行なわれました。

9月28日、東京・私学会館において、全日私幼連の平成27年度・102条園研究会議が開催され、全国から91人の多くの先生方が出席されました。

はじめに、村山十五全日本私立幼稚園連合会副会長より開会のことばがあり、講演に入りました。

主な会議内容は次の通りです。

最後に葉本喜信全日私幼連102条園委員長より閉会のあいさつがあり、会議は終了いたしました。



優れた芸術家の作品を、  
子どもたちの生活環境へ。  
見て、触れて、感じながら、  
子どもたちの心は、  
大きく羽を広げます。

「喜ぶ少女」

株式会社 ジャクエツ  
www.jakuetsu.co.jp

## 平成27年度 地区教研大会概要

北海道地区 教育研究大会

北海道・札幌市／7月30日・31日

### 大会テーマ 「子どもの『今』に寄り添い、 子どもと『未来』をきずく」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を高めよう～

本年度で第58回目となる、北海道私立幼稚園教育研究大会を7月30日・31日の2日間にわたり、札幌ガーデンパレスとポールスター札幌にて開催いたしました。この教育研究大会は、毎年、道内5ブロックで行われるブロック教研大会の皮切りとなる全体会となり、昨年に続き、(公財)全日私幼研究機構の教育研究課題である、「子どもの『今』に寄り添い、子どもと『未来』をきずく～保育臨床の視点を大切に、保育の質を高めよう～」の大会テーマのもと、本年度は約450名の参加者により開催されました。

第1日目は開会式の後、記念講演の講師として福島大学人間発達文化学類教授 大宮勇雄先生をお招きし、「乳幼児期だからこそ育つ大切なもの～『教育』と『保育』は切り離せない～」との演題で、多くの事例をもとに学び多いご講演をいただきました。2日目には5つの分科会が開催されました。例年、夏の教研大会は役職別・経験年数別の分科会を設けていましたが、本年度はテーマ別の分科会を設定いたしました。また、記念講演をはじめ、分科会のテーマを設定するにあたっては「子ども・子育て支援新制度」が施行されたこともあり、教育・保育、そして幼児期につながる乳幼児期という内容も盛り込んだ研修会といたしました。

第1分科会は「特別支援教育」をテーマに発達障害を含む多様な教育的ニーズのある子どもたちの入園が増えてきている中、その子どもの理解、家庭との連携や支援、インクルージョン教育の実現について学びました。第2分科会は「子ども理解」として、記念講演の講師である大宮先生から前日の記念講演の内容をベースにして、ニュージーランドの保育記

録である「ラーニング・ストーリー（学びの物語）」の具体的な事例を参考にしながら、子ども理解を深めるために必要な保育者の態度を学ぶとともに、ワークショップを行いました。第3分科会は「0～2歳児の子どもと親について」として、親子の育ちの歴史、0～2歳児の育ちや援助方法、その保護者への対応をさぐり、それらのことから満3歳以上児とその保護者の育ちへの見通しと援助の方法について学びました。第4分科会は「幼児の体の発達課題と体育あそび」として、幼児期の発達課題をしっかりと講義とワークショップで学んだ後、実際に参加者全員で体を動かし、子どもの体の成長と実践について学びました。第5分科会は「子どもと楽しむ自然体験」として、幼稚園教育要領の「環境」のねらいの一つである「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ」ということを達成するため、実際にフィールドワークで自然体験をしながら、普段の保育の中で子どもたちの感性を豊かにし、楽しい自然体験活動をどうやって伝えていくかを学びました。

他にも2日間を通して、全日私幼研究機構の幼児教育実践学会でも行われているポスター発表を昨年に引き続き行い、本年度は3園の幼稚園から発表が行われ、各園で実践されている教育について、多くの参加者と積極的なやりとりがされました。毎年、開催されているこの教育研究大会ですが、幼稚園や幼児教育を取り巻く環境が大きく変化する中、今後も幼児教育をしっかりと中心に据えながら、時代に即した研修会を企画・開催したいと思っております。  
((公社)北海道私立幼稚園協会教育研究副委員長、  
富良野市・慈恵ひまわり幼稚園／青木賢亮)

## 大会テーマ 「子どもの『今』に寄り添い、 子どもと『未来』をきずく」

～大事なものは変わらない～

8月4日・5日茨城県つくば市にて第30回関東地区・神奈川地区教員研修茨城大会が開催されました。栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・新潟・山梨そして地元茨城から1,420名の参加者があり、会場のつくば国際会議場を埋め尽くしました。大会運営にはたくさんの力が集まり、参加者と充実した時間をつくることができ、皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

大会1日目は、茨城県知事はじめ多くのご来賓の方々にご出席いただきました。挨拶は、全日本私立幼稚園連合会の香川敬会長から始まりました。会場のロビーに著名な建築家・コルビュジエのデザインによるイスが置かれていることに目を止められ、今年は新たな幼稚園元年であること、幼稚園教育が日本の教育の根幹を成すという自負を持って研修しよう、研修は私立幼稚園の鑑とも述べられました。

基調講演は筑波大学名誉教授で地元美浦村教育長の門脇厚司氏を招いて「子どもの社会力を育てよう」とのテーマでご講演いただきました。

- ・生育環境の変化で、他者をわがことのように思う気持ちが失われつつある。人が人と繋がって社会をつくる力＝社会力こそが21世紀型の能力。

- ・新生児は先天的に大人とかかわる力を持っている。子どものほんとうの友だちは大人！

- ・美浦村は“0～90歳の社会力育て”をめざし食事時にテレビを消し家族が関わる時間大切にしている。

- ・一緒に園庭作りをするなどで園と保護者が関わり大人の社会力育てを工夫してみよう。

等の話がありました。

アトラクションは茨城県立大洗高校マーチングバンド BLUE-HAWKS。国内のコンクールでは数々の受賞歴があり海外遠征もある部員74名が洗練され

たサウンドとシャープな動きをステージいっぱいに繰りひろげ、時に澄み切ったアカペラを聞かせ、観客の心を熱くさせ好評でした。

2日目は7つの一般フォーラムと9つの特別フォーラムで全16フォーラムがあり、それぞれ研修に励みました。多くの参加者にとって問題提起・ゲスト（大学教授や園長）の講義・グループ討議での意見交換は様々な学びや収穫となったようです。特に全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が進めている公開保育による学校評価システムを本大会では初めてフォーラムの一つに取入れ、公開園からは“やってよかった公開保育”参加者からは“見に来てよかった公開保育”との声があり、コーディネーター養成講座を受講された先生方の実践の場ともなり、大きな成果となりました。また「新学習指導要領の解説—幼児が伸びる援助をめぐる—」とのテーマで取りくんだフォーラムでは参加者は31名ほどでしたが、内田伸子先生（十文字学園女子大）を囲み少人数ならではの充実した研修となり、様々な試みの意義も感じられました。

本大会はここ数年、大会運営はコンパクトにこの方針で進んでおりますが、開会式のあり方への意見は多く、夏季休暇中の保育ニーズが高まる現状も踏まえると、今後も組織として改善を問い続ける必要があるのではないのでしょうか。また地区外の長野県から日程の都合で8名の参加者を受け入れましたが、地区を超えてともに研修できたことは意味あることだったと思います。

“人が人と繋がっていく”喜びを実感しながら学び合えた2日間でした。

（（一社）茨城県私立幼稚園・認定こども園連合会教育保育研究委員会副委員長、水戸市・認定こども園河和田幼稚園／嶋田眞美）

## 大会テーマ 「子どもの『今』に寄り添い、 子どもと『未来』をきずく」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を高めよう～

7月22日・23日に東京地区としての教育研究大会を実施しました。初日は、なかのZEROホール（中野区）にて全体会を実施しました。とても暑い夏の日でしたが、1,200人の会場が満席になる盛況ぶりでした。また、翌日は会場をアルカディア市ヶ谷に移しての分科会を行いました。連日ご参加くださいました先生方とともに、大会運営を支えてくださいました研究委員をはじめ、関係の皆様感謝申し上げます。

同時に今大会では、免許状更新講習を並行して実施しています。更新講習の受講者は、年々、増加の傾向にあり、今年は約200人となりました。こちらでも大規模な運営となってきたため、今年度の試みとして基調講演（初日の午前中）のみ全体の大会と重ねた上で、以後の講義やテストは、会場を飯田橋レインボーホールに移した上で、大会と同時に進行することを試みました。

全体会での基調講演は河邊貴子先生（聖心女子大学教授）に「子どもの理解をどう次の保育につなげるか」というテーマでご講演をいただきました。続いて大宮勇雄先生（福島大学人間発達文化学類教授）に「学びの物語～幼児期の学びについて～」という話を伺いました。河邊先生は絵本から始まった遊びの多様な展開など興味深い具体的なエピソードも含めながら、続く大宮先生のお話である、ニュージーランドのラーニングストーリーにもつなげていただくものとなりました。お2人の講義内容には関連性があり、より深く子どもの学びを把握するとともに、私たちが幼児教育において持つべき視点について、再確認ができたのではないかと思います。記念講演は、ピーター・フランクル氏（数学者・大道芸人）による「人生を楽しくする方程式」というテーマでのお話で、数学の問題を交えながら解く楽しさ

とともに知的消費が人生を豊かにするというお話を伺うことができました。

2日目は以下の10のテーマで分科会を設定しました。この日も1,250名の参加がありましたので、ひとつの分科会での平均参加数は120名という大人数での実施となりました。①「園長・設置者として幼児教育を考える」②「親子の育ちと幼稚園」③「園内研修」④「保育環境」⑤「幼小連携」⑥「特別支援教育」⑦「描くということ」⑧「保育の日常における音あそび」⑨「ドラマで遊ぶ」⑩「自然観察」（井の頭公園・新宿御苑）となります。

分科会は単なる座学ではなく、自然観察では、実際に公園に出かけて、自然に触れての研修を行うとともに、実技を取り入れての企画もありました。また、この他の分科会においても、学習効果をいっそう高めるために、ワークショップ方式や付箋などを使ったバズセッションでの参加型研修が多く取り入れられています。また講師の先生方もパワーポイントや映像データでの情報提供を含めたものが中心となっていますので、事前の講師の先生方との打ち合わせ等の事前準備から始まって、分科会がスムーズに進行するように教育研究委員の先生方も工夫を重ねてくださいました。今後も質の高い幼児教育のために努力を重ねていきたいと思っております。

また、各園の保育への取り組みや研究をパネルにまとめて展示発表していただく会場も用意しました。今年度は幼稚園や地区会から7つのテーマで発表がありました。昼食時間を含めた前後に紙面での研究発表を見ていただきながら、様々に意見交換ができたことで、いっそう有意義な時間を持てましたことに感謝いたします。（（公社）東京都私立幼稚園幼児教育研修会常務理事、教育研究委員長、武蔵野市・武蔵野東第一・第二幼稚園／加藤篤彦）

## 大会テーマ 「だから幼稚園Ⅱ（パートツー）」

## ～遊びは学び～

梅雨明けの大変暑い今夏、7月30日と31日の両日に渡り、東海・北陸地区私立幼稚園教育研究大会が岐阜市にて開催されました。今回の大会テーマは昨年の石川大会を引継ぎ「だから幼稚園Ⅱ（パートツー）～遊びは学び～」です。多くの体験を通して、子どもたち一人ひとりの能力や可能性を伸ばしていく遊びを大切にしよう、そして子どもたちからも学ぼうと東海・北陸の8県から2,100人を超える先生が集まりました。

1日目の全体会は、まずは長良児童合唱団の笑顔と清らかな歌声で皆様をお迎えしました。開会式では香川敬全日私幼連会長をはじめ上田地区会長、来賓の方々より幼児教育の大切さをお話いただき、永年勤続表彰も行いました。

基調講演として、玉川大学教育学部教授 大豆生田啓友先生をお招きし「いま、幼稚園教育の実践で大切なこと」の演題で講演をしていただきました。女優の杏さんの幼稚園時代のお話を含めて、幼児期に関わる保育者の役割はとても重要であると話されました。また、乳幼児期の質の高い保育は、その後の子どもの成長や国の経済にも大きな影響を与え、そして、非認知的スキル（社会情動的スキル）が幼児期にはとても大切だとも話されました。勉強型の学力ではなく学びに向かう力を育成するのが幼稚園であると言われ、その仕事に携わる我々も身が引き締まる思いで聴かせていただきました。

そして、記念講演は新沢としひこさんでした。幼児教育に関わる者なら誰もが知っているシンガーソングライターです。「世界中の子どもたちが」をはじめ、「さよならぼくたちのようちえん」や「虹」、「ともだちになるために」など心に残る名曲を会場と一体になって歌っていただきました。なかでも「世界のピース」では、写したい人はステージで、写り

たい人は客席でと会場に散らばったり集まったりして、最後は「ピース！」撮影。本来会場内での撮影は禁止ですが、でもこの曲は例外で新沢さんも客席に降り、先生たちと一緒に記念撮影してくれました。

全体会が終わり、夜は「こ～れ！のままいかな！」（飛騨弁で「一緒に飲みましょう」の意味です。）を柳ヶ瀬で開催。子どものことを、幼稚園のことを語り合いましょう！と参加者全員を対象に案内をして、講師の新沢さん、山野さん、助言の先生、団体長、大会関係者等が集まり、大変賑やかに語り合いました。（夜の遊びも学びです）

2日目は分科会。第1から第10分科会までは昨年度の石川大会からテーマを引継ぎ開催しました。岐阜県が担当する第11～14分科会は、「体を動かして遊ぶ」「絵本を作る」「料理・お菓子を作る」「この先の幼稚園教育を考える」の4つです。体育、造形、食育など、会場や講師の関係で大変競争率の高い分科会となりました。「この先の幼稚園教育を考える」では、話題提供者として岐阜県の若手後継者のグループである「清流塾」が担当しました。今年度の登録者数（年齢制限45歳まで）は31名で、県内外の研修ばかりでなく、連合会の役割も担っています。助言者に小田豊先生をお招きし、これからの幼稚園教育について語り合うことができました。最後に、PTA大会では子どもをまんなかにして、親子で新沢としひこさんと山野さと子さんのコンサートを楽しむことができました。不手際が多々あったことを反省し次回につなげていきます。次年度開催は三重県です。

（（一社）岐阜県私立幼稚園連合会総務委員長、岐阜市・かぐや第二幼稚園／篠田正男）

## 大会テーマ 「子どもの『今』に寄り添い、 子どもと『未来』をきづく」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を高めよう～

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の“子どもの『今』に寄り添い、子どもと『未来』をきづく”のテーマのもとに、私立幼稚園の先生たち1,142人が集まり、近畿地区・大阪地区の合同研修会が平成27年7月22日・23日の2日間にわたり、大阪国際会議場で実施されました。

初日の記念講演では、スキージャンプメダリストの葛西紀明氏に、「夢は努力でかなえる」とのテーマでご講演いただきました。合宿中であるにも関わらず来ていただき、ソチオリンピックに至るまでのエピソードやオリンピック当日の心境や仲間・外国選手のことなどユーモアを交えてお話いただきました。いつも明るく笑顔で子どもたちに接し、時には冗談を交えながら家を切り盛りしていらっしゃるお母さんやご家族の様子から、努力を支えてくれる家族の存在やライバルの存在の意味を改めて感じさせられました。

基調講演では、白梅学園大学学長の汐見稔幸氏に「新制度時代を念頭に置いた保育の内容・質をめぐって」と題しお話しいただきました。現代の子どもの育ちを考えると、知っておかなければならない生活の変化や世界の考え方を紹介していただき、知識量だけではなく自分で考え工夫する力など「非認知的能力」を育てることの必要性をお話しいただきました。

翌日は府県の代表から、6分科会に分かれて各園の保育実践の報告と、それをもとに話し合いを行いました。

第1分科会は和歌山県担当で、子どもの環境への関わりをテーマに保育者の受け止め方について話し合われました。

第2分科会は京都府担当で、保育者と友達の関わりを通した子どもの社会性の育ちについて話し合

いが行われました。

第3分科会は奈良県担当で、子どもの発達障害について、幼稚園・保護者関係機関（養護学校）との連携の事例をもとに話し合われました。

第4分科会は認定こども園の多い兵庫県の担当で、これからますます気をつけていかなければならない2歳児の保育について話し合われました。

第5分科会は滋賀県の担当で、週に一度の園内研修の積み重ねから子どもに寄り添ったカリキュラム編成を目指している事例が報告されました。

第6分科会は大阪の担当で、新制度が始まったなかでの実務上の問題点が4人のパネラーから発表がありました。

3園の公開保育では、コーディネーター養成講座の研修を受けられた先生方にお手伝いいただき、充実した話し合いができた公開保育となりました。

夏休みに入って早々の研修でしたが、1学期の振り返りと2学期の保育を考えるととても良い機会になりました。

（（一社）大阪府私立幼稚園連盟教育研究委員長、門真市・たちばな幼稚園／邨橋雅広）



## 大会テーマ 「子どもの『今』に寄り添い、 子どもと『未来』をきづく」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を高めよう～

天候にも恵まれ、四国4県から527名が参加し、第30回全日本私立幼稚園連合会四国地区教育研究大会が8月4日・5日の2日間、徳島市のグランヴィリオホテルにおいて開催されました。

四国では4年に1度まわってくる大会ですが、今年は全国でも1番少ない10園での運営となり、充分なことができていなかったかとは思いますが、無事終えることができ、参加いただいた皆様のご協力に感謝いたします。

1日目の記念講演は十文字学園女子大学特任教授・お茶の水女子大学名誉教授の内田伸子先生から「子どもの創造的想像力を育む保育者の役割～どの子も伸ばす援助をめぐる～」と題してお話を伺いました。たくさんの資料をご準備いただき、①想像力の発達について、②学力格差は幼児期から始まるのか、③創造的想像力を育む保育者の役割等について、調査実験事例をもとにわかりやすくお話くださいました。膨大な資料の、おそらくは半分くらいしかお話できなかったのではないかと思います。最後に、子ども中心の保育を盆栽にたとえて話された、「保育者は『まつ』と『きく』が大切。」ということと、「サンテグジュペリ『星の王子様』の中の『この世に一番大切なものは目に見えないんだよ。』その目に見えないものを見抜く力、創造的想像力を育むことが乳幼児期から児童期、そして大人にとっての発達課題であるということをお願いしたいですね。」という言葉が印象的でした。

その後、6つの分科会では、昨年度から継続の大会テーマ、「子どもの『今』に寄り添い、子どもと『未来』をきづく～保育臨床の視点を大切に、保育の質を高めよう～」のもと、それぞれ2つの提案発表、質疑が行われました。

2日目の分科会では、提案発表をもとに、質疑応

答、グループディスカッションを行い、お互いに学び合う時間を持つことができました。また、設置者・園長部会では、「新制度の近未来と今後の私立幼稚園を考える」と題して、各県の代表者から認定子ども園への移行状況や市町村の様子、課題等、県内の現状報告やフロアからの意見交換を行いました。そして、講師の全日本私立幼稚園幼児教育研究機構副理事長安家周一先生からは「乳児期から幼児期にかけての連続と非連続」についてのお話を伺いました。乳児期の、愛着関係の成立と生活習慣の自立につながる個別支援計画の策定がその後の幼児期における教育課程による集団教育につながるということ。その中で、幼児期に獲得したい力の目安や、文化の伝承としての認知能力と、創造力の育成としての非認知能力について、特に幼児期における、心情・意欲・態度を育む非認知能力の重要性や、人との関わりの大切さ等について学ぶことができました。また、幼稚園入園前の3歳までに他者との関わりができていない子どもが多くなってきた現在、幼稚園由来の園として、教育課程に基づいた教育、教育課程外の保育課程に基づく保育活動についてのご示唆もいただきました。

並行して行った、免許状更新講習は、神戸女子短期大学の川村高弘先生から、「幼稚園教諭の学びの連続性」についてという演題で、歌あり、体操、実験、製作ありの、5領域を網羅した密の濃い楽しい講義を39名が受講しました。

新制度が始まりましたが、制度は変われども、教育・保育は変わらず、子どもをまんやかに、明日からの実践につながる研修となったことと思います。  
(徳島県私立幼稚園協会副会長・教育研究委員、徳島市・わかかさ幼稚園／岡本和貴)

## 私学共済ホームページの 加入者用ログインページをご活用ください

平成27年5月から私学共済ホームページ（<http://www.shigakukyosai.jp/>）に、加入者用ログインページを設置しました。

加入者向けの刊行物である、「広報誌レター」「私学共済ブック〔給付編〕」「私学共済ブック〔保健・宿泊編〕」のほか、福祉事業の「私学事業団健康相談ダイヤル（メンタルヘルス等相談ダイヤル）」などを掲載しています。

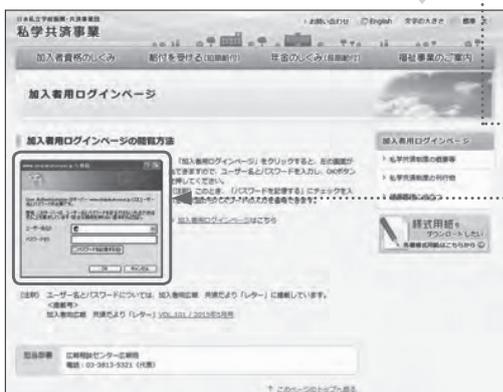
ユーザー名・パスワードは、「広報誌レター」5月号、7月号及び「私学共済ブック 2015〔保健・宿泊編〕」をご覧ください。

### アクセス方法

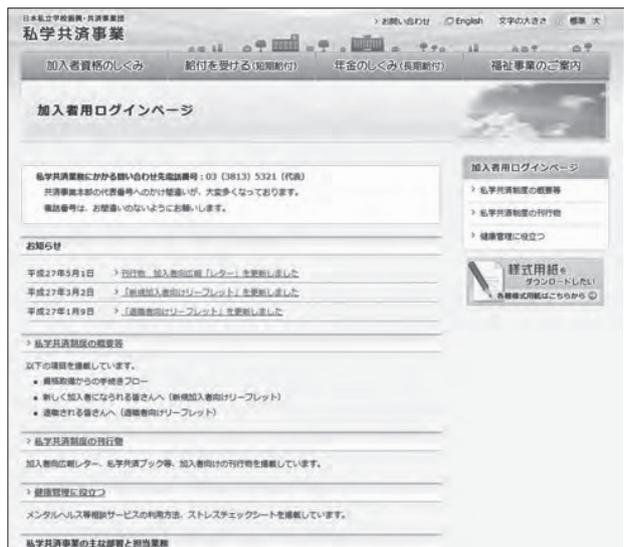
#### 1. 〈私学共済事業トップページ〉



#### 2. 〈加入者用ログインページ〉



#### 3. 〈加入者用ログインページ閲覧方法〉



1. 私学共済事業トップページ右のバナー「加入者用ページ（ログイン）」をクリックします。
2. 左の認証画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力し、OK ボタンを押してください。この時、「パスワードを記憶する」にチェックをすると次回以降の入力を省略することができます。
3. 刊行物等の掲載内容等を閲覧することができます。私学共済ブックについては目次（しおり）を表示すると、ご覧になりたいページを確認できます。

Kirsti Karila タンペレ大学学校教育学部副学部長・教授

## フィンランドにおける就学前教育から 小学校教育への移行 ～越境する子ども・保護者・教師～

### ■移行に関する保護者の関心

Karikoski 氏の研究によると、移行に関する保護者の関心事は三つあると指摘されています。1つ目は子どもが育つ環境が、子どもを中心に据えて遊びや学びのプロセスを重視していた内容から、成果重視で教師主導による学習と享受の環境へと大きく変わる事です。2つ目は、社会性の発達を促していた環境から、より個々に働きかける環境へと移行する事、3つ目は就学に向けての準備段階文化から、市民性を獲得するための教育的文化へと移行するのではないかと、という点に目を向けている事が挙げられました。

### ■ Transition Capital (移行の資本)

移行期については Transition Capital (トランジション・キャピタル) という考え方があり、「移行の資本」という意味です。これは、「今まで積み上げてきたものは子どもにとっての資本として存在する」という考え方で、まず、子どもたちは家庭から園に入る事で最初の移行を経験します。これが、子どもたちの最初の資本となり、その後例えば他の園に転園したり、学年が上がったりする経験も子どもたちの中に資本として積みあがっていきます。そういった今までの経緯もしっかりと考慮する事が、小学校への移行を考えていく上で大切であると言えるでしょう。



### ■保育者と教師との良好な関係

良い移行には、保育者と小学校の先生との良好な関係性が不可欠です。幼保小間の連携において、保育者及び教師はその関係性が築き上げられる事で、移行がいかにか複雑なプロセスを踏むものであるかが、先生の視点ではなく、子どもの視線から捉える事が大切であると分かります。ただ、保育者や教師が互いに関係性を持って協働し合う事は、何も努力せずに当たり前のように成されるのではなく、努力を積み重ねた結果得られます。関係性を持ってお互いが協働する際、垣根を超えるためには2点重要な事があり、1点目は、お互いにどのような思いや動機があって物事を言っているのかを理解する必要がある点です。例えば小学生が時間通りに物事を終わらせなければいけない、というプレッシャーがあ

るとすればその動機付けは何なのか、環境や状況が生まれる動機を理解し、相手なりの考えや立場、背景を理解する事が相手の理解に繋がり、しっかりと関係性を築く事に繋がります。

2点目は活動の目的を広げていく事であり、相手を理解していくと、同時に色々な活動の目的も理解できるようになります。その理解が出来た上ならば、こういう活動が良いのではないかという意見が出て、新しく目的を広げていく事が出来るようになります。移行期において目的を広げるという事は、お互いの考え方を共有する事でお互いの目的に橋渡しがなされる事になり、その領域を広げることが出来るという意味になります。

### ■ “流れるような移行” に向けての取組み

タンペレ市では、“流れるような移行” を行う事に関心が高く、そのために市レベルで計画を立て、遂行するよう積極的に取り組んでいます。また、保育者や教師も一緒に協力して“流れるような移行” を目指すべく、様々な工夫が行われています。子どもたちがそれぞれの発達段階や能力に合わせて、柔軟に就学を迎えられるような移行期の実践の開発を行っており、保育者と教師と一緒に交友活動をしていく中で、ある子は生活力がしっかりしており、小



学校での生活に問題が無いと判断した場合は早めに就学したり、まだ難しいと判断すれば何か月か待ってから就学したほうがいいのかと、就学を遅くする事も進めています。よって、子どもそれぞれが何歳に就学するかは発達段階をみて判断されます。この開発プロジェクトは2016年までに全ての園と学校が参加する事が決められています。市独自の裁量権が大きくなっているのも、タンペレ市では市の方で就学年齢を柔軟に対応出来、これを行う為に全ての先生が計画に関わっていて、週に2時間の共同で行う活動があり、そこで計画を立てる事を積み重ねています。

こども園への移行? 0・1・2歳児保育を導入? 保育の質の向上は?

## 選ばれる園になるために

～変革のビジョンと実践22例～

# 保育施設の未来がこの本に!

保育施設の“機能と質”を考える。  
22園の変革ビジョンとプロセスを一挙公開。

私立幼稚園経営者懇談会・著  
248ページ/税込4,320円  
世界文化社刊/4061301

株式会社 世界文化社 ワンダー営業本部  
TEL: 03-3262-5128 FAX: 03-3262-6121

## ■議論し、理解する必要性

保育者・教師及び双方の機関を対象に、互いの専門性が出合う領域および互いの関わりによって新たに創造される場に着目した移行期に関する調査が行われましたが、その研究では専門性の違う両者が協働しただけでは自動的に新たな実践や知識が生み出される訳ではない事が明らかになり、また、時間が掛かると分かりました。時間が掛かった要因は、各々が使う言葉が違い、同じ言葉でも文脈や違う分野で使う場合は違う意味を持っていたりと、両者の橋渡しを理解するのに必要で、なかなか話が進まない状態が起きた事があったようです。連携を形作る枠組みとしてまず議論が必要ですが、議論の段階を分析すると初めはお互い何を考えているのか探っている事が良く分かるそうです。それに加え、上記のような言葉の相違などもあり、同じ議論の場にいる人たちが認識を理解し合う事から始まりますが、それが一番大切にもなります。やがて関係し合うようになるまで進むそうですが、それはまだこれからの課題でもあるという事でした。

連携や交流活動をしていると、先生同士が協働する事や互いの相互理解に集中してしまいがちですが、その活動に従事し、お互いが理解し合う段階を超えることで、やっと子どもたちの学びに到達出来ます。難しい事も多いですが、これからの事を考えて努力

していくという事で、フィンランドにおける移行実践の事例とその研究成果の発表を締められました。

(京都市・光明幼稚園副園長／田中康雄)

☆ ☆

次回からはシンポジウム「北欧の教育の連続性から何を学ぶか」の講演記事を掲載いたします。

### 私学研修福祉会 海外研修員募集 締切12月4日

一般財団法人私学研修福祉会では、平成28年度の海外研修員の募集を行なっています。

●申込資格：私立幼稚園及び認定こども園の専任教員又は職員で、継続して2年以上在職の方（原則として50歳未満の方で、2週間以上12カ月以内の期間）●助成対象経費：日本との往復及び外国内での移動にかかる航空賃、船賃の実費及び滞在費●助成金：助成対象経費の50%以内（平成29年3月末の精算）●申込締切：12月4日必着●申込：同財団ホームページで募集要項・申込書などをダウンロードできます。

<http://www.skf.or.jp/kensyu/>



**新刊** アイデアいっぱい！  
**季節&行事の  
製作あそび**

季節を感じて  
作って楽しむ！

ポット編集部 編  
定価1,944円(税込)  
26×21cm/96ページ  
発行・発売 チャイルド本社

こいのぼり製作をはじめ、七夕、いも掘り、作品展、クリスマスなど、幼稚園や保育園で欠かせない、季節と行事の楽しい製作のアイデアがいっぱい！  
製作活動の目安となる年齢表示付きです。

## 幼児教育に欠かせないこと

4月にスタートしました子ども・子育て支援新制度ですが、神奈川県の加盟園数578園の内、39園が新幼保連携型認定こども園・幼稚園型認定こども園・施設給付型幼稚園へとそれぞれ移行した形となりました。来年度以降も新制度へ移る園も少なくはないと思いますが、それでも各自治体の対応の違い（特に他の市区町村に隣接している園）や、それに伴う利用者負担額の格差、定員数超過による減額等々、さらには、新制度という元々複雑なシステムに二の足を踏んでいる園も多いことが見受けられます。

毎年6月の後半より、神奈川県議会各派、8月は県民局への予算要望活動を行っています。今年も県連合会・教育振興連盟・退職基金財団の3団体による活動が展開されました。その内容は多くございますが、特に注視しなければならないことが、幼稚園教諭の人材確保であります。神奈川県私立幼稚園連合会では昨年に続き、今年も7月に新卒者向け、11月には県の事業として既卒者向けの就職セミナーの開催を行います。昨年の新卒者、既卒者それぞれのセミナーで来場された方々からは新制度に関しての質問はそれほど多くなく、自身に見合った園を探すことに懸命であった印象を受けました。このように県連合会主体と県の事業とで人材確保のための努力を惜しむことなく、一方で経常費補助金の充実を切に願い、より質の高い幼児教育を目指すためには何よりも教育者として、優秀な人材確保は必須条件であると考えられます。従いまして、今後の幼児教育振興法（仮称）もどのように発展されていくかに期待をしています。

（(公社)神奈川県私立幼稚園連合会副会長、鎌倉市・北鎌倉幼稚園／輿俊通）

## こどもがまんなかプロジェクト-Fの取組み

（一社）福岡県私立幼稚園振興協会では、平成27年度の「こどもがまんなかプロジェクト<sup>ハイフン</sup>-F（福岡版）」の事業として、九州で唯一のプロのオーケストラ「九州交響楽団」と共に作り上げる「こどもがまんなかコンサート」を開催致しました。

参加した子どもは700名。県内各地より集まった子どもたちが、九州交響楽団と同じステージに上がるのです。子どもたちの目の前には、見たこともない楽器がたくさんあり、楽団との距離は数十センチです。子どもたちの目の輝きは、園庭で遊んでいる時とは全く違うものでした。

「聴く」「楽しむ」「歌う」の3つをテーマとした3部構成のコンサート。「聴く」ステージでは、繰り広げられる音の迫力に自然と身体が動いていました。「楽しむ」ステージでの「指揮者体験」では指揮者によって変化していく音が、不思議に感じられました。体験した子どもたちの顔は、指揮者そのものでした。最後の「歌う」ステージは、九州交響楽団と共に、福岡県内各地の幼稚園のお友達と一緒にいきものがかりの「ありがとう」を歌いました。たった1曲。でも、この1曲が、ステージ上のみんなの心をつなぐ曲になり、また、多くの観客を感動に包みこみました。

手探りのコンサート開催ではありましたが、「子どもたちに本物の音楽を」の一念から、幼稚園の先生、高校生、大学生など多くのボランティアの協力の元、無事終了しました。

今後も、「こどもがまんなかプロジェクト-F」は、福岡の子ども達と社会をつなぐ事業展開を進めて参ります。

（(一社)福岡県私立幼稚園振興協会総務委員会副委員長、糸島市・瑠璃幼稚園／波多江教雄）

## 11月は、児童虐待防止 推進月間です。

厚生労働省は、11月1日から30日を「児童虐待防止推進月間」と位置づけ、関係省庁、関係団体の協力のもと、児童虐待問題に対する社会的関心の喚起を図っています。

平成28年度の児童虐待防止推進月間の標語は『「もしかして」あなたが救う 小さな手』です。

期間中は児童虐待防止のための広報・啓発活動、オレンジリボン・キャンペーンの推進、フォーラム等の開催などの取り組みを集中的に実施します。

詳しくは厚生労働省のホームページをご覧ください。

## 編集後記

イチロー選手が42歳になる今でも現役のメジャーリーガーとして活躍し続け、多くの記録を打ち立てているのは周知の事実です。そのイチロー選手が、ストレッチをしている姿というのはテレビでよく目にすると思います。私には、イチロー選手が高いパフォーマンスを続けていられる要因がそこにあるように思えてなりません。

一般的には、歳をとったから体が硬くなったとよく言われますが、本来は年齢を重ねる中で体の動かし方がパターン化されてしまったから硬くなったのだそうです。

この考え方を我々の行う教育に当てはめて考えてみます。何十年もパターン化されてしまった教育では、高いパフォーマンスを保証し続けられないということになります。凝り固まった教育をストレッチして高いパフォーマンスを維持したいものです。

(調査広報委員・上野和彦)

(株)学研教育みらい 東京都品川区西五反田2-11-8 幼児教育事業部

お問い合わせは 0120-833-415  
フリーダイヤル

### 園ぴゅう太のメールサービス



サーバー  
二重化!

#### らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信!  
組別・個別送信、既読確認もできます。  
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

スマホ  
で

#### らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信!  
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。  
タップするだけでメール送信できます。

### ぜ〜んぶ学研に おまかせ!!

心機一転!  
リニューアル

オリジナル!  
キャラクター  
ロゴ

Flashで  
動画!

#### らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新  
もお電話・FAXで対応します。  
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも  
システム併用でご対応いたします。

## 平成 27 年度（第 9 回）免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 札幌市	「子どもの変化についての理解」、「教職についての省察」、「教育政策の動向理解」、「学校の内外の連携についての理解」の4項目について、教員に求められる最新の知識の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	深浦 尚子（札幌国際大学短期大学部幼児教育保育学科准教授）、吉田 耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長）、井上 薫（釧路短期大学教授）、西出 勉（北翔大学教育文化学部教育学科教授）	12 時間	平成 28 年 1 月 7 日～ 平成 28 年 1 月 8 日	100 人	平 27- 81340- 00812 号
東京都 千代田区	本講習は、「教職についての省察」「子どもの変化についての理解」「教育政策の動向についての理解」「学校の内外における連携協力についての理解」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	宮下友美恵（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修副委員長）、黒田 秀樹（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 研究研修副委員長）、田中 雅道（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長）、安達 謙（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修副委員長）	12 時間	平成 27 年 12 月 19 日～ 平成 27 年 12 月 20 日	150 人	平 27- 81340- 00813 号
福岡県 福岡市	当必修講習は、「学校の内外における連携協力についての理解」「子どもの変化についての理解」「教育政策の動向についての理解」「教職についての省察」の4つの分野を通して、今日的な保育の課題を明らかにし、課題に向かう学びが広がる内容としたい。	清水 陽子（九州女子短期大学教授）、鬼塚 良太郎（九州龍谷短期大学准教授）、田中 雅道（(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長）、脇 信明（西南女学院大学短期大学部教授）	12 時間	平成 27 年 12 月 5 日～ 平成 27 年 12 月 6 日	100 人	平 27- 81340- 00814 号

●選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に係る事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
福島県 福島市	幼稚園教諭を対象とする。近年、価値観の多様化により様々な思いを持つ保護者への対応に苦慮している現状をふまえて、グレーゾーンと呼ばれる子どもや障がいのある子どもの保護者支援や家族支援を含めた、幼稚園・認定こども園における保護者対応の方向性について考察する。	若月芳浩（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）	6 時間	平成 27 年 12 月 24 日	40 人	平 27- 81340- 57804 号
群馬県 前橋市	子どもの創造性を育む表現遊びを、音楽表現ならびに造形表現を中心としながら、さらには総合的な表現あそびへと実践をとおして理解を深め、その指導法を検討する。また子どもが楽しさ等に出会い、心を動かす体験から創造性を育むようになるには、保育者自身の感性や創造性がどう影響してくるのか、その要因や可能性について考察を深めたい。	柳 晋（育英短期大学保育学科教授）、島田 由紀子（和洋女子大学こども発達学類准教授）、駒 久美子（和洋女子大学こども発達学類助教）	6 時間	平成 27 年 12 月 25 日	30 人	平 27- 81340- 57805 号
大阪府 大阪市	本講習では、前半はいま小学校では感情コントロールできない子どもの問題が深刻な状態にあるため、予防のために幼児期における大人の関わりにおいて、何が重要なかを明らかにする。後半は0歳から小学校接続期の子どもの発達の全体像を持ちつつ、育ちや学びの軌跡の踏まえ、見通しを持ちながら、遊びを中心とした環境を通じた教育を如何に構想するのか、その方法を考察する。	大河原 美以（東京学芸大学総合教育科学系教育心理学講座教授、臨床心理士・家族心理士・学校心理士）、北野 幸子（神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授）	6 時間	平成 28 年 3 月 28 日	100 人	平 27- 81340- 57806 号



**バス専用機不要！**  
**スマホで簡単バス運行管理！**

**いつもNAVI**

「いつもNAVI 動態管理サービスfor送迎バス(くるんとバス)」は、株式会社センリンデータコムに登録商標です。

# くるんとバス

-通園バス位置情報システム-

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットのGPS機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。



**株式会社チャイルド社** インターネット課

TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15  
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>